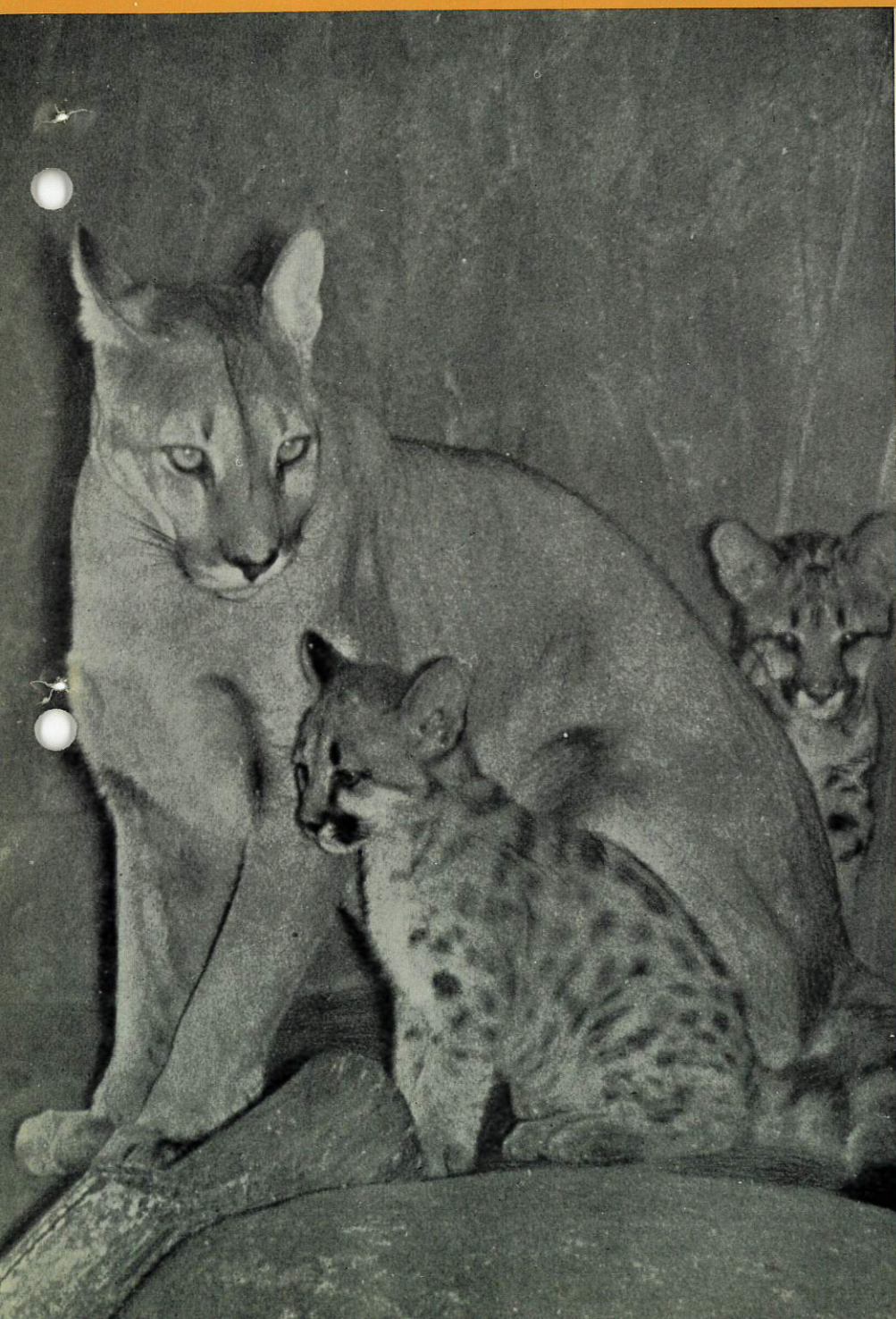


なきごえ



1966

11

大阪市
天王寺動物園

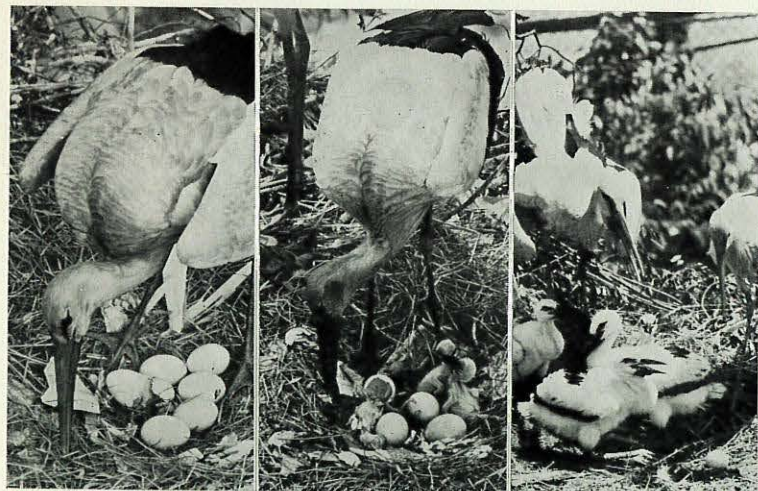
しゅばしこう(ヨーロッパこのとり)

日本の特別天然記念物のこのとりの保護が叫ばれ、熱心に保護施策がとられているにもかかわらず、豊岡、小浜のこのとりをはじめ本動物園のこのとりの悲報が続いて、私たち動物に接するものの胸を痛めています。

このようなとき、この日本このとりの親類筋にあたるしゅばしこうが、1昨年から3年連続天王寺動物園でふ化育雛に成功しています。大フライングケージの前に立つと、高い巢台に7羽のしゅばしこうがその優雅な姿をみせて、今日も入園者の関心を集めています。今回は、しゅばしこうのふ化育雛の状況についてご紹介しましょう。

春はまだ遠い2月頃よりおす、めすがせせと巣造りを始めました。そして3月26日に初卵を産んで2日目ごとに計6コの白いがちょう卵大の卵を産みました。卵を抱くのは、おすとめすの共同作業で、雨の日も風の日もじっと卵を抱き続けました。そして、4月30日待望のひながふ化しました。まず午前6時、卵に小さな穴があき、だんだんと左右にひび割れが入ってきました。そしてその穴から小さな嘴の一部を出し、少しずつ力強く卵殻を破っていきました。およそ8時間位たったでしょうか、やっとせいばいの力を出して卵の外に出ました。しばらくは、力を出しきったせいか、ぐったりとして痛々しく見えました。5月1日、2日、5日、7日と全部で5羽のひなが次々とふ化しました。最後の1コは無精卵だったのでしょうかふ化日を過ぎててもついにふ化しませんでした。

生まれたてのひなは、純白のうぶ毛でおおわれ



4月30日

5月5日

5月30日

(東政宏)

先が少し黄味がかかった黒い嘴をしたとってもかわいいものでした。ひなはふ化後約24時間たつと親から餌をもらいます。親鳥が交代で池に降りて、あじ・どじょうなどを食べたあと、巣に戻ってひなの近くに吐き出すのです。そうするとひなたちは争って食べました。

ふ化して1週間位たつと、親が巣に戻るとすぐさま「餌を早くちょうだい!」とピーピーと鳴いて催促をするようになりました。ふ化後2週間たつと、餌をもらおうとピーピーと鳴いて1口2口餌を食べた後に嘴を叩き合すようになりました。この動作は全く成鳥がカタカタと嘴を叩き合わせるのと同じでありました。4週目くらいになると足も次第にしっかりしてきて、今までのようにお尻をひきずって歩かずひょこひょこ立って歩き、糞などは巣の端の方にいってすませるようになりました。さらに順調に発育してふ化後8週目を迎えると、風切羽根がほぼ生えそろってきました。そして、巣の上で盛んに跳躍を行うとともに羽根を広げて飛ぶ練習を行なうようになりました。

7月5日のよく晴れた日でした。私が出ると観察していると、ひなの1羽が初めて池に舞い降りるのを見ました。私ほうれしさがこみ上げてきました。

1週間後、他の2羽も池に降りました池に降りた3羽のひなはすぐには自分で餌をあさろうとはしませんでした。そしてこれまでと同じように巣の上で親から餌をもらっていました。池に舞い降りるようになって1週間ほどたつとやっと餌のあじをつついたり、池に放流してあるどじょうを食べるようになりました。5羽ふ化したうち巣立ち出来なかった2羽について触れておきましょう。

1羽はふ化後3日に大雨にうたれて死にました。他の1羽はもうかなり大きくなっていましたが惜しくも6月7日に死んでしまいました。3~4日にわたる長雨と他のひなに餌をとられて充分あたらなかったためと思われる。何としても長雨はひなにとって大敵です。最後に鳴声についてですが、ふ化後5ヶ月位はピーピーと鳴いています。その後はこのとり特有のカタカタと嘴を叩き合せて音を出すことによって意志表示しているようです。

くじゃくの飼い方

くじゃくは、動物園やしほしば特殊な施設で飼われ、春先から夏にかけてその美しく見事に開くおすの羽根に、大人や子供にも非常に人気を博していますが、家庭で飼うのもまた大変優雅なものです。

そこで今回はくじゃくの飼い方をお知らせしましょう。家庭で飼うにあたって、まず成鳥のオス1羽、メス2羽を飼うのが最もよいのですが、番でもよく、完全に飼育管理を自分でこなすようになってから、ふ化育雛に移るようにして下さい。そうするとだんだん興味が出てきます。

● くじゃく舎について

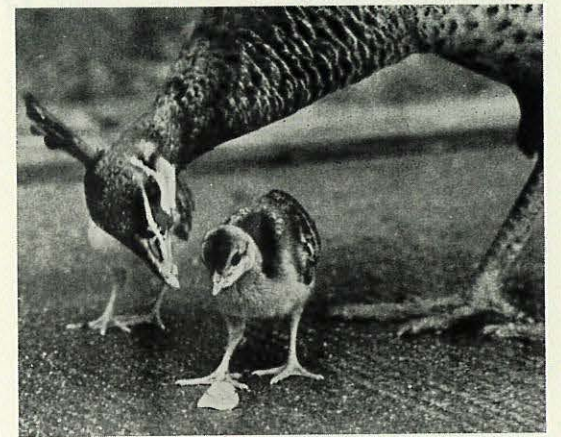
くじゃくは湿気を嫌う鳥なので、乾燥した陽当りのよい場所を選び、広さは、運動飛躍及び尾羽根(上尾筒)の開閉に充分なように約4メートル四方、高さ2.5メートルから3メートル位の小屋にし、床には砂を入れます。小屋には雨露をしのぐ屋根を設け、小屋の一部を板にし、その他の全面を金網張にします。冬の寒さに弱いので防寒の設備があればなおよろしい。

又、止り木については、柔らかい木がよく、くじゃくの負重に堪えるようにしっかり取付け、上尾筒をそこなわないようにしましょう。

● 餌について

ひえ・あわ・もみ・えごま・おのみを常食とさせている所もあれば、養鶏配合飼料で飼っている所もありますので、それは育雛中の飼育管理により分れますので、購入される時によく餌のことは聞いておきましょう。

その他水や新鮮な青菜は、きらさないよう注意



し、繁殖期には虫や小魚及びニラ・ネギを与えることよいように思います。又、冬期には脂肪分に含む飼料を与えるようにしましょう。

● 産卵について

5、6月頃に7ケ~12ケ位産卵します。卵は清潔な所に置き、鶏に抱かせるのが無難で、抱卵後28~33日位で雛がかえります。

親鶏がついて育てるのは安全(1~2月頃まで)ですが、人工ふ化の時には充分なる管理注意を必要とします。

● 育雛について

親鶏より離し、育雛箱に入れ、雨や湿気にかからぬよう又、動物質飼料を多量に与えるようにし一抱卵毎に分けて管理してやるのが賢明です。

又第1回目の越冬をするので、保温に注意し、外敵にも気を許してはいけません。

体の完成は第2年の換羽で、3年の春より産卵するでしょう。

人工ふ化の場合は次回にお話しします。

(米田敏光)

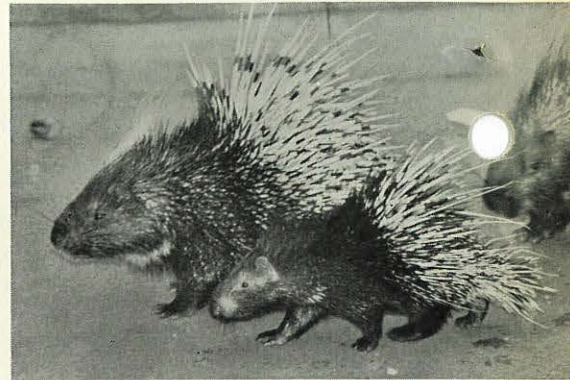
動物園グラフ

ベビー誕生

今年生れた赤ちゃんたち
みんな元気でスクスク育っています。



↑ **くろざる**
初めての赤ちゃんでお母さんは
とても可愛がっています
5月23日生れ



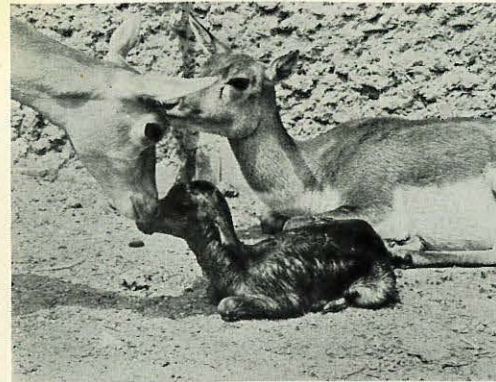
↑ **インドやまあらし**
一人前にハリをつけてお母さんと一しょ
7月24日生れ



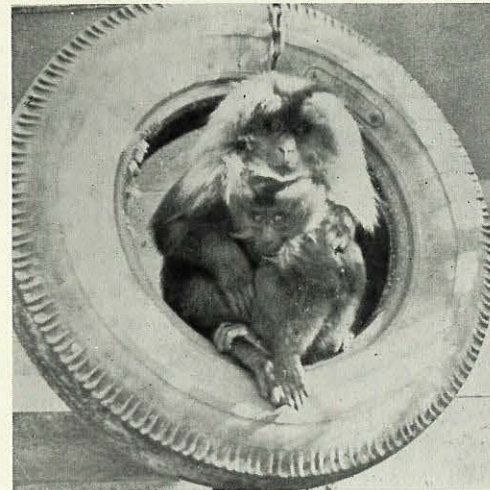
← **アグーチ**
(しかねずみ)
毎年5月と10月
頃に2〜3頭う
まれます
5月26日生れ



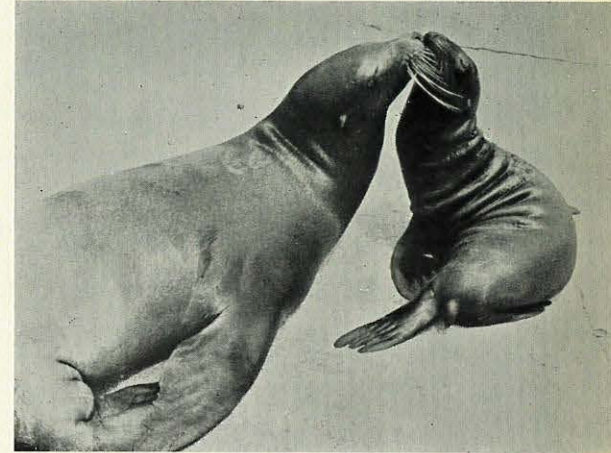
← **ピューマ**
昨年ひきつづいて2
度目のおめでたです
9月5日生れ



↑ **インドくろかもしか**
かもしか放飼園での初めての赤ちゃん
です
7月3日生れ

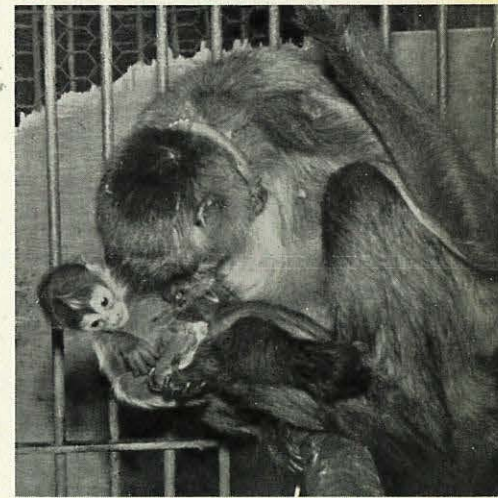


↑ **ししおざる**
小さいながらも一人前にたて
がみもそろいました
7月1日生れ



↑ **あしか** ウツラウツラとひる寝の最中
6月14日生れ

↓ **くもざる**
「コレコレ、オイタをしてはいけません」
10月1日生れ



10月 動物園日記

- 動物舎暖房用のボイラーの火入式が行なわれました。今までの石炭にかわって今年から重油ボイラーになりましたので、動物園にとって大敵の煤煙がぐっと少なくなります。
- 日本鹿のおすの角切りを行ないました。秋になって気が荒くなり危険ですから毎年このころに行なっています。
- 冷房ペンギン室のペンギンたちの爪切りを行ないました。長い夏の間、狭い室内にとじこめられていたので、すっかり爪がのびていました。
- ピューマのおすは臍ヘルニアという病気になりましたので全身麻酔をして手術を行ないました。すっかり元気になっています。

- 動物園のなかで一番寒がりやのにしきべびの部屋にスチームを通し暖房を始めました。
- 夏の間、強い陽ざしをさけるため各動物舎に張っていた「よしず」を一せいに取り除きました。
- ピューマの赤ちゃんが生まれて1カ月、この日初めて屋外運動場に出してもらい、一般の入園者にお目見得しました。くもざるのめすは治療のいかなく死にました。おおづるの卵は無精卵で、ふ化しませんでした。
- ももいろべりかんの羽根が伸びすぎましたので、飛んで逃げないように切ってやりました。
- 秋の動物園まつりが始まりしました。連休は早朝からたくさん入園者であふれました。

- つしまやまねこが初めて一般の入園者にお目見得しました。
- オリックスのめすが右の前足をいためてしまいましたので治療をしています。
- アルマジロときのぼりカンガルー舎に暖房が入りました。
- 動物園まつりの行事の1つとして、めじろの鳴合せ会が行なわれました。
- 朝晩やや冷え込んできましたので、夏の間はずしていた窓ガラスなどを入れてやりました。
- ゴリラのめすが下痢をしますので薬を与えています。
- かもしか園に放飼予定のインドくじゃく、ほろほろちょうなど、ひなの翼の切断手術を行ないました。
- 10.21のストのため、10時開園となりました。

- コヨーテのおすが急に原因不明の病気で倒れて治療のいかなく死にました。
- くろざる1頭が寄附で入園しました。とびかもしか(おす)の下あごに腫れものができて、餌が食べにくくなっていましたので、手術して排膿してやりました。
- キングペンギンなど冷房室のペンギンたちを、屋外プールに出してやりました。かわいいチンパンジーが1頭入園しました。やがてたくさん芸を覚えてお目見得することでしょう。
- ぎんけい1番が寄附されました。
- ゴリラのめすが下痢が止らず、食欲、元気がなくなってしまいました。治療に全力をあげています。

ペットを訪ねて

「やまがら学校」の先生

生野区東桃谷4丁目218
吉村 数雄 さん

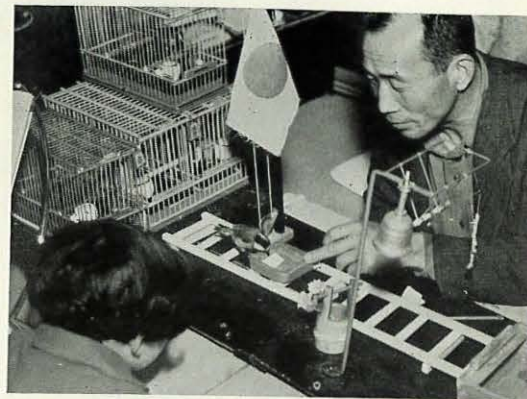
夜店や縁日で、かわいい小鳥がおみくじを引く姿もだんだん少なくなって来ました。「やまがら」の芸は日本独特のもので、外国人には大変珍しがられるものです。今日はその芸を伝える数少ない先生の一人、吉村さんをお訪ねしました。今は休校中で生徒のいないのが残念でしたが、かつての教え子たちの思い出を一羽一羽なつかしうに語られました。

「開校は昭和25～6年頃でした。鳥好きだった私は、当時遊び道具の少ない子供たちを喜ばそうと「やまがら」を集めて芸を仕込みました。太郎次郎、花子、三郎と名前を付けて、毎日昼頃から4～5時間の授業です。教科内容も教材もすべて自分で考案しました。

生徒たちも、学校の子供たちと同じように一羽一羽その性質が違ってきます。憶病もの、あわてもの、物覚えのよいもの、悪いものなどいろいろあるのです。芸を教える時にも、スズを鳴らすのを忘れてヤシロの中へとび込んだり、またいくら教えてもスズばかり鳴らすだけで、ヤシロの中からオミクジをくわえてこないものもあります。根気よく気長になんどもなんども生徒が覚えるまで教えなければなりません、大体1カ月位でかなりの芸が出来るようになります。」

こうして、50羽の内、49羽までは無事卒業しますが、どうしても落第生が出るそうです。いつも落着きがなくソワソワして何を聞いてもウワの空の生徒でこんなのは、全然駄目だそうです。反対にジューッと考え込む生徒は将来有望との事でした。

吉村さんは新入生を迎えると、先ず大好物の麻



やまがらに授業中の吉村さん

の実で手なづけ、4～5分のスリエにかえて落着かせます。それから授業開始です。竹籠のサンの間から指にはさんだ麻の実を一個づつやりながら知能、性格などを知る訳です。2時間位お腹をすかして授業を始めると早く覚えます。次に籠の入口を開けてエサを与えますが、エサは如何なる場合でも必ず籠に帰って食べるように仕込みます。出来るとのひらにエサを乗せ、終いには籠から離れたところでも飛んで来て、エサをくわえて籠にもどって食べるようになるそうです。ここまで授業が進めばあとは教えれば何でも芸をするようになります。「おみくじ引き」や旗上げ鐘つきなどの高等教育が始まります。こうして一度卒業したものは、10年位たってもチャンと芸をするというのには感心させられました。

教育のコツは「鳥を安心させる事」で静かな環境が必要です。騒音の激しい今の町中では鳥の授業も出来にくい訳です。

無事、こうして学校を出た卒業生たちは、今も四国や九州、関東地方まで進出して元気で6～70羽も活躍中との事でした。

(中川道朗)

動物園ニュース

☆ ピューマの腹壁手術

ピューマのお父さんのお腹が次第に大きくなって来るので、診断した結果、進行中のヘルニアであることが判りましたので麻酔をかけて手術をすることに決めました。スライディングチージで押え、ネプタールを19cc腹腔内に注射をしました。ひょうやライオンより、薬の効目が早く、15分で手術の出来る深麻酔に達しましたので早速手術に着手しました。腹壁に鶏卵大の穴があつて腸が垂れ下がっていたのです。型の通り腹壁縫合せ皮膚は金属糸を使って絶対に破れないように万全の方法をとりました2日後、麻酔も完全に解け、何もなかったかのように元気で歩き廻るようになりました。もう腸捻転の恐れもなくなり、毎年夫婦の中には可愛い赤ちゃんが誕生して、余生を安楽に送ることでしょう。

☆ チンパンジーのボイラー火入式

恒例のボイラーの火入式を行いました。10月1日にボイラーを炊くことを不思議に思われる方々は新聞紙上に出ているこの頃の最高、最低の温度を一寸調べて下さい。夜間は時によると13～14度に降っていることがあります。この様なときには寒がりやの爬虫類には送汽してやらないと、食欲が減退するばかりでなく、動作も更に不活発となりますから、何時でも送汽出来る態勢に入る準備をせなくてはなりません。今年はボイラーも重油に切り替えられ缶も2缶据りました。動物代表としてチンパンジーのキャンデーちゃんが火入式に参列しましたが、例年の様にショベルが無いので一寸、とまどっていましたがそれでも上手にボタンを押したとたんに、爆音と共に発火したので、驚いていましたが、やはり代表だけあってキャーッと云う声は出ませんでした。

入園の御案内

- ★ 開園時間
3月～10月 午前9時～午後5時
11月～2月 午前9時～午後4時30分
◇ 閉園30分前で入園券の発売を終わります。
◇ 12月30・31日のほかは年中無休です。
- ★ 入園料
普通 大人(13才以上) 60円
 小人(5才～12才) 20円
団体 30人以上 大人 54円 小人 18円
 50人以上 大人 48円 小人 16円
 100人以上 大人 42円 小人 14円
◇ 中学生は小人料金扱
◇ 5才未満は無料(但し保護者付添のこと)
- ★ 駐車場使用料
バス 1台1回 200円 但し2時間
乗用車 1台1回 100円 までごとに
- ★ 交通
市バス 動物園前下車(南門正面)
地下鉄 動物園前下車徒歩2分
国鉄 天王寺駅下車公園内徒歩10分
近鉄 阿倍野橋駅下車 “
南海 恵美須町駅下車徒歩5分

なきごえ11月号もくじ

- 動物の紹介(しゅばしこう).....2
- 飼い方シリーズ(くじやくの飼い方).....3
- 動物園グラフ.....4.5
- ペットを訪ねて.....6
- 動物園ニュース.....7

表紙の写真「ピューマの親仔」

9月5日おすめすの2頭が生まれました。
10月から屋外運動場でみなさんにお目見
得しました。

なきごえ 昭和41年11月15日発行（毎月1回15日発行）第2巻第11号（通巻19号）

編集人／和田辰巳 発行所／大阪市天王寺動物園協力会 大阪市天王寺区玉水町2 電話大阪771-8401

定価 40円

